

取組：県内すべての公立中・義務教育学校訪問による課題の把握と指導助言

当該地域の特性等を踏まえた課題分析の視点

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童生徒が英語を使って何ができるようになるかを明確にした目標を設定し、言語活動を充実させた授業づくりを推進することが求められていることについては理解が進んでいる。しかし、実際の授業において、言語活動の割合や英語の使用率が低い状況であり、到達目標に基づいた指導と評価の一体化にも課題がある。新学習指導要領に基づいた授業づくりに繋がる研修等が必要である。

Plan

■取組計画

県内すべての全中・義務教育学校を訪問し、外国語科（英語）の授業を参観の上、教科書を活用した4技能統合型の授業づくりについて具体的に指導助言する。

■体制

鳥取県教育委員会（小中学校課、東部教育局、中部教育局、西部教育局）が連携して実施する。市町村教育委員会は、可能であれば同行する。中学校教育研究会の事前の理解を得る。

Do

■県内すべての公立中・義務教育学校を訪問

- ・事前に本県が目指す外国語科の授業づくりについて外国語科（英語）担当教員に説明するためのオンライン研修会を開催した。
- ・外国語科（英語）の授業を参観の上、教科書を活用した4技能統合型の授業づくりについて具体的に指導助言した。

■鳥取県が目指す英語教育を示したポンチ絵を活用

[ポンチ絵]

◇鳥取県が目指す小・中・高等学校一貫した英語教育の姿

◇鳥取県における小・中学校英語教育7年プラン ⇨

◇新学習指導要領の趣旨を踏まえた小・中学校外国語科の授業づくり

- ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善の推進を図るため、ポンチ絵を活用して、訪問するすべての指導主事が同じ視点で授業を参観して、個別の学校に実態に応じて指導助言を行った。
- ・授業参観後には、共通の視点に基づいてGoogleフォームで報告を行い、県内の状況を随時把握できるようにした。



Check

(%)	学校訪問時	R3英語教育 実施状況調査	目標
①授業における、英語担当教師の英語使用状況 *50%以上	52.7	67.5	74
②授業における生徒の英語による言語活動時間の割合 *50%以上	25.5	65.3	85
③Can-Do リストの設定	89.1	96.4	100

授業改善が進んでいない状況がみられた。言語活動のポイントが理解されていなかったり、改善の方向性がイメージできなかったりする現状がある。また、教科書の使い方について悩んでいるという声も多く聞かれた。

Action

■言語活動の理解及び実践に係る研修及び実践事例紹介

- ・言語活動に対する理解が十分ではなく、教科書を使ってどのように言語活動を実施していくか、教科書を生かして言語活動を実施するためのポイントや実例を学ぶ研修を開催する。
- ・これまでのエキスパート教員等の優れた授業実践動画を紹介し、言語活動の実例をオンラインで幅広く周知する。
- ・Can-Do リストの活用方法と達成状況の把握についての研修を実施。
- ・指導と評価の一体化を図るために、Can-Do リストを単元目標やゴールとなる言語活動や評価方法につなげるための方法について伝達する研修を開催する。

成果の普及

※学校教育支援サイトへの掲載（鳥取県内の教員のみ閲覧可能）

■エキスパート教員による授業公開

■県内の好事例の動画（授業＋解説＋対談）※R2年度作成

■小学校英語専科教員作成の教材や指導案等（3月掲載予定）